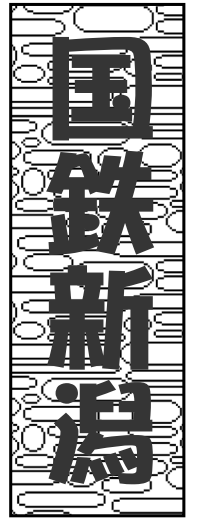
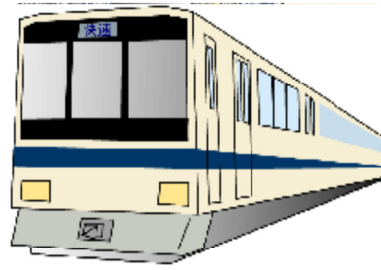


どうしたら残せるのか



第1回整備新幹線 並行在来線対策会議開く

NO. 637
発行
2008・6月30日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
守橋久仁雄
編集責任者
教宣部



六月二十二日、国労本部で第一回整備新幹線並行在来線対策会議が開催されました。
構成メンバーは、本部は田中副委員長・浜中書記長・小池業務部長・エリア本部では、東日本・西日本・九州で、地方本部では、盛岡・新潟・長野・北陸・東京・そして貨物協が出席されました。



並行在来線を維持可能な 鉄道とするために



国労本部は、地方鉄道が、住民の暮らしと地域を支えていることを踏まえて①並行在来線を将来的にも維持可能な鉄道とするために、全区間を鉄道として存続させること②JRから経営分離した鉄道会社の経営分離が成り立つような恒久的支援措置の確立③政府・与党合意の枠組みの再検討～を今こそ求めていかなければならない。

特に、並行在来線を通して得ない貨物鉄道の負担のあり方、全国的な物流ネットワークからも、問題点について今後さらに国労としての政策活動を展開する必要があることから、国・自治体・JR各社による責任分担のあり方、地域住民の足としての並行在来線を将来にわたって、安全かつ安心して利用するための政策の確立および運動を検討するため『整備新幹線並行在来線問題対策会議』を設置しました。



● 政党関係では、並行在来線の専門の議員がいない。
○ 地域、沿線住民、利用者などへどうしたら残せるのか知らせていく。
● 国労として、どう運動をつくっていくのか。何ができるのか議論・運動を進めていく。

経営が成り立たない

会議では、○並行在来線の第三セクター化について、厳しい経営実態で経営が成り立たない、存続可能な経営状況にしていく。
● 与党合意では、JRからの経営分離となっているが、その見直しを迫っていく。具体的検討をしていく。この問題を全国大会で大きな柱として反映させていく。
○ 利用者・沿線住民としては、並行在来線とは、どうなのか。JR労働者の雇用の問題や安全問題について、要求を組み立てていく。など多くの報告や意見が出されました。



見直しを迫る

★対策会議の日程

- 二〇〇九年一月予定の第百七十九回拡大中央委員会までに、対策会議として議論・検討をまとめて中央執行委員会に提出します。
- ★第一回対策会議～九月十日
- ★第三回対策会議～十月上旬
- ★第四回対策会議～十一月上旬
- ★第五回対策会議～十二月中旬
(最終とりまとめ)

5月25日

『妙高と信越線を考える会』が発足しました。会は旅館経営者・商店街経営者・三市連絡会などが結集しました。



当面の取り組みについて



★7月4日（金）

全国代表者会議

★7月30～31日

第76回定期全国大会 伊東温泉

★8月2日（土）

第8回東日本出向連絡会

★8月20～21日

会計監査

★9月12～13日

第22回東日本大会 湯河原

★10月18日（土）

第60回定期地方大会

10時～（新潟会館・会場予定）

★10月25日（土）

地本団結ハイク～（予定）

★11月9日（日）

退職者送別会～（予定）



編集後記

今年も半年が過ぎました。時間が過ぎるは早いですね。七月からさまざまな取り組みが展開されます。

七月から十一月までの大まかな日程が決定しました。多くの組合員の結集をよろしくお願いたします。

各支部の組合員の皆さんからの投稿をお願いたします。機関紙は組合員、ひとりひとりが作っていく紙面構成にしていきたいと思います。御協力をお願いします。

★前号は、635号と記載しましたが636号に訂正します。

教宣部